

第一部：パネルディスカッション「草創期の童謡詩人たち」

コーディネーター

あおき ふみ

青木文美 (愛知淑徳大学 准教授)



2000年3月、愛知教育大学大学院教育学研究科修了。現在、愛知淑徳大学福祉貢献学部准教授として活躍中。児童文学に造詣が深く、資料を丹念に読み解いた研究論文には定評がある。与田家との交流も深く、現代の与田準一研究の第一人者である。2009年10月の与田準一記念館開館に際しては監修にあたった。著書に「絵本から『子ども福祉』を考える」などがある。育ち盛りの二児の母として、目下育児にも奮闘中。

パネリスト

おおはし てつお

大橋鉄雄 (北原白秋生家・記念館館長)



1952年生まれ。名前の「鉄雄」は白秋の実弟の名に由来する。1975年福岡教育大学卒業。2013年白秋の母校・柳川市矢留小学校校長を退職後、2014年北原白秋生家・記念館館長就任。「歌詞に込められた白秋のメッセージ」等執筆、講演を始め、BS朝日「黒柳徹子コードモノクニ～白秋童謡の世界～」等TV番組にも出演。2017年5月より「西日本新聞」九州版に鶴丸哲雄編集委員とめぐる「二足の靴 白秋ぶらり旅」を月1回連載中。

パネリスト

くさば むつひろ

草場睦弘 (金子みすゞ記念館 主任・企画員)



NPO 法人金子みすゞ顕彰会事務局長、会報『みすゞ通信』編集長を務める傍ら、平成15年から長門市立「金子みすゞ記念館」主任・企画員として活躍。平成7年から「ねばーみすゞ基金」の一因として国際協力に努めたほか「東日本大震災救援・金子みすゞ募金」の事務局として、岩手、宮城、福島3県の小中高等学校に、金子みすゞの詩集を贈る活動を行った。

パネリスト

よしがい ただふみ

吉開忠文 (与田準一記念館 事務局長)



1953年生まれ。2013年にみやま市役所を退職後、みやま市立図書館にて与田準一記念館の運営を担当。2019年度からは与田準一記念館の事務局長として所蔵する資料の整理を進めつつ、与田準一の実像の把握と顕彰に努めている。

第二部：対談「時代を作った作詞家 橋本 淳」

はしもと じゅん

話し手：橋本 淳 (作詞家)

本名・与田準介

1939 (昭和14) 年7月8日生まれ

父はみやま市出身の児童文学者の与田準一



青山学院大学卒業後、フジテレビ『ザ・ヒットパレード』のディレクターだったすぎやまこういちのマネージャーとなり、番組制作のアシスタントなどを務めながら、作詞の仕事始める。初のレコード化作品は、森山加代子「私たちの青春」。青山学院時代の後輩にあたる筒美京平の作曲家デビューとなった「黄色いレモン」の作詞も手掛けた。

1966 (昭和41) 年、ジャッキー吉川とブルーコメッツ「青い瞳」のヒットで一躍極光を浴び、翌67 (昭和42) 年

与田準一の長男、与田準介は作詞家：橋本淳として活躍し、2000曲以上の作詞を手掛けました。グループサウンズの作品における作詞で脚光を浴び、以降、1970年代1980年代にかけては歌謡曲でもヒット作を産みました。

には「ブルーシャトウ」で日本レコード大賞を受賞。他にもザ・タイガースやヴィレッジ・シンガーズ、オックスなどグループ・サウンズ (GS) の作詞を多く手がけ、「GS関連で最も売れた作詞家」として知られている。

1968 (昭和43) 年暮れに発売され大ヒットに至った「ブルー・ライト・ヨコハマ」をはじめ、筒美京平とのコンビで次々とヒット曲を生み出す。奥村チヨ、郷ひろみ、小柳ルミ子、西田佐知子、野口五郎、平山美紀など多彩な歌手に楽曲を提供し、日本の音楽シーンに一時代を築いた。

はやかわ らん

聞き手：早川 蘭 (フリー MC)



みやま市山川町出身のフリー MC。さわやかでテンポの良い語り口が人気で、各種のイベントの司会をこなす。

主な作品

作品名	歌手
雨のエア・ポート	欧陽菲菲
あなたがいたから僕がいた	郷ひろみ
逢いたくて北国へ	小柳ルミ子
銀河鉄道999	ささきいさお
モナリザの微笑	ザ・タイガース
くれないホテル	西田佐知子
男と女の数え唄	日吉ミミ
カナダからの手紙	平尾昌晃・畑中葉子
弟よ	内藤やす子